

公益社団法人 環境科学会 2024年会 タイムテーブル

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場				
部屋	141	142	143	144	計画系演習室				
9月9日 (月)	8:30	8:30 受付開始				ポスター発表 (閲覧のみ) ※11:00までに 掲示してください。			
	8:45								
	9:00								
	9:15	シンポジウム-1 平時から災害事故時を対象とした化学物質リスクガバナンスに向けた基盤的手法の構築 東海 明宏 伊藤 理彩 9:15～11:45	シンポジウム-2 水から人々の暮らしと価値観を探る—私たちはどのような水環境を目指すべきか— 村上 道夫 中村 高志 9:15～11:45	シンポジウム-3 多世代・多地域連携による人材育成—インカレSDGsプロジェクトを例として— 中口 毅博 杉本 卓也 9:15～11:45	口頭発表1D-1 気候変動1 9:00～10:15 松本 健一				
	9:30				口頭発表1D-2 気候変動2 10:30～11:45 金森 有子				
	9:45								
	10:00								
	10:15								
	10:30								
	10:45								
	11:00								
	11:15								
	11:30								
	11:45								
	12:00	昼休み 11:45～13:30				ポスター発表・討論 11:45～13:30 コアタイム 12:15～13:15 優秀発表賞審査・投票 13:30締切			
	12:15								
	12:30								
	12:45								
	13:00								
	13:15								
13:30									
13:45	シンポジウム-4 カーボンニュートラル地域の実現に向けての社会実装研究(デジタルトランスフォーメーションの活用) 藤田 壮 松本 亨 13:45～16:15	シンポジウム-5 シチズンサイエンスと熟議を基盤とした気候変動ナラティブと態度行動変容の可能性 馬場 健司 木村 道徳 13:45～16:15	口頭発表1C-3 化学分析1 13:30～15:15 徳村 雅弘	口頭発表1D-3 市民活動1 13:30～15:15 沼田 大輔	ポスター発表 (閲覧のみ)				
14:00			口頭発表1C-4 気候変動3 15:30～16:15 阿部 直也	口頭発表1D-4 微生物利用 15:30～16:15 王 斉					
14:15									
14:30									
14:45									
15:00									
15:15									
15:30									
15:45									
16:00									
16:15									
16:30									
16:45	表彰式・学会賞受賞記念講演 16:25～17:40 会場:11号館講堂								
17:00									
17:15									
17:30									
17:45									
18:00	交流会(若手育成事業表彰式を含む)18:00～20:00 会場:山上会館								

会場名	A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場			
部屋	141	142	143	144	計画系演習室			
9月10日 (火)	8:30	8:30 受付開始				ポスター発表 (閲覧のみ) ※15:00までに 撤収してください。		
	8:45							
	9:00							
	9:15	シンポジウム-6 環境科学と大学の環境教育の体系化 歴史・現状・未来8-「環境冠大学院の教育改革・組織改革と現在地」- 内山 弘美 山中 康裕 9:15～11:45	シンポジウム-7 水質スクリーニング分析の社会実装における課題と提言 小林 憲弘 栗栖 太 9:15～11:45	口頭発表2C-1 市民行動2 9:00～10:15 田畑 智博	口頭発表2D-1 エネルギー関連 9:00～10:15 鷺津 明由			
	9:30			口頭発表2C-2 化学分析2 10:30～11:45 三宅 祐一	口頭発表2D-2 脱炭素 10:30～11:45 増井 利彦			
	9:45							
	10:00							
	10:15							
	10:30							
	10:45							
	11:00							
	11:15							
	11:30							
	11:45							
	12:00	昼休み 11:45～12:45						
	12:15							
	12:30							
	12:45							
	13:00	シンポジウム-8 学術賞受賞記念シンポジウム「環境配慮行動研究の展開」 村上 一真 甲斐田 直子 13:00～15:30	シンポジウム-9 グローバルサウス諸国における環境防災 山本 佳世子 岩本 茂子 13:00～15:30	シンポジウム-10 サステナビリティの観点からみた地域の気候アクションを通じた人づくり・地域づくり 白井 信雄 増原 直樹 13:00～15:30	口頭発表2D-3 データ解析1 12:45～14:15 大西 暁生	ポスター発表 (閲覧のみ)		
	13:15				口頭発表2D-4 データ解析2 14:30～15:45 棟居 洋介			
13:30								
13:45								
14:00								
14:15								
14:30								
14:45								
15:00								
15:15								
15:30								
15:45	後片付け							

※ シンポジウムの枠内の氏名はオーガナイザー、口頭発表セッションの枠内の氏名は座長です。

口頭発表(一般発表)

[1日目(9月9日)午前]

口頭発表 1D-1「気候変動 1」D会場(144) 9:00-10:15

座長: 松本 健一

1D-0900 社会経済・気候システムの相互作用を考慮したモデルによる気候変動
影響の分析

○松本 健一, 立入 郁, 蘇 宣銘, 高山 宏明 (東洋大, JAMSTEC)

1D-0915 市街地の SSP・RCP 別将来像を対象とした気候変動下の夏季温熱環境予
測[富士電機賞受賞講演]

○山崎 潤也, 飯塚 悟, 吉田 崇紘, 似内 遼一, 真鍋 陸太郎, 村山
頭人 (名古屋大学, 東京大学)

1D-0930 気候変動が引き起こす 21 世紀中の世代間・世代内衡平性に係る要因分
解分析

○田崎 智宏, 林 岳彦, 尾上 成一, 山口 臨太郎, 高倉 潤也, 塩竈
秀夫, 横畠 徳太, 高橋 潔 (国立研究開発法人 国立環境研究所)

1D-0945 地域気候変動適応計画の質的評価: 改訂前後の計画における内容分析

○今井 葉子, 藤田 知弘, 真砂 佳史, 肱岡 靖明 (国環研・適応セン
ター)

1D-1000 全国自治体における地域特性を考慮した気候変動リスク評価枠組みの
構築と評価

○井田 新, 栗栖 聖, 福士 謙介 (東大・工, 東大・未来ビ)

口頭発表 1D-2「気候変動 2」D会場(144) 10:30-11:45

座長: 金森 有子

1D-1030 地球温暖化対策における非国家主体の役割 一個人の環境配慮行動への
影響—

○烏 日嘎 (早稲田大学)

1D-1045 在宅勤務の普及に伴う CO2 排出量への影響に関する分析

○山澤佳那子, 金森有子, 池田晃一, 森田舞, 棟居洋介, 増井利彦
(東京工業大学, (株)オカムラ ワークデザイン研究所)

1D-1100 京都市の熱中症搬送者数動向における祇園祭の影響

○安成 哲三 (総合地球環境学研究所)

1D-1115 気候変動と世界食糧危機: 新品種開発における悪循環

○今井 健一 (大阪経済法科大学)

- 1D-1130 自由貿易協定が気候変動に及ぼす影響 一日中韓 FTA を対象とした GHG 排出量の要因分解分析—
○赤堀 弘和 (北大・農)

[1 日目(9 月 9 日)午後]

口頭発表 1C-3 「化学分析 1」 C 会場(143) 13:30-15:15

座長: 徳村 雅弘

- 1C-1330 撥水剤・防曇剤に含まれる有機フッ素化合物 PFAS の包括的定量分析
○南村 紬, 磯部 大斗, 齋藤 隼輝, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国大, 国立環境研究所)
- 1C-1345 DGT-パッシブサンプラーに蓄積した重金属等の前処理迅速化の検討
○森 育子, 矢吹 芳教 (地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所)
- 1C-1400 ビクトリア湖の表層水中のマイクロプラスチック
○奥田 哲士, 丸山 敦 (龍大・理工)
- 1C-1415 ハイパースペクトルカメラを用いた水田土壌の窒素含有量の推定
○佐藤 響平, 田中 優也, 向高 新, 木村 篤史, 後藤 真太郎 (立正大・地球環境)
- 1C-1430 シリコンパッシブ法における環境影響の評価と補正方法の精緻化
○田川 瑛梨, 王 斉, 雨谷 敬史, 三宅 祐一 (横浜国大, 労働安全衛生総合研究所, 静岡県大)
- 1C-1445 包括的定量分析に基づく繊維製品に含まれる有機フッ素化合物 PFAS の経年動向解析
○齋藤 隼輝, 小澤 真人, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国大, 国環研)
- 1C-1500 労働安全衛生法に基づくリスク評価のための揮発性有機化合物パッシブ法の検討とデータベース構築
○溝渕 円香, 王 斉, 雨谷 敬史, 深澤 英, 福島 靖弘, 鈴木 義浩, 三宅 祐一 (横浜国大, 労働安全衛生総合研究所, 静岡県大, 柴田科学)

口頭発表 1C-4 「気候変動 3」 C 会場(143) 15:30-16:15

座長: 阿部 直也

Quantitative analysis of China's Certified Emission Reduction
1C-1530 (CCER) policy: Impacts on CO2 emissions and economic activities
using a CGE model

○朱 瑞康, 棟居洋介, 金森有子, 増井利彦 (東京工業大学, 国立環境
研究所)

1C-1545 気候変動に関する YouTube 動画の分析評価

○大里 優佳, 栗栖 聖, 福士 謙介 (東京大学)

1C-1600 Impact of Climate Change on Sports: awareness and attitudes of
University-level Football Team members in Japan

○バラオイング ローレンクロエ, 阿部 直也 (東京工業大学)

口頭発表 1D-3 「市民活動 1」 D 会場(144) 13:30-15:15

座長: 沼田 大輔

1D-1330 人々の環境配慮行動とその心理構造の解析に関する研究 [奨励賞受賞
記念講演]

○青木 えり (地球研)

1D-1345 大学生を対象とした菜食の普及条件と GHG 排出削減効果の分析

○増原 直樹, 北条 彩夏 (兵庫県立大・環境人間)

1D-1400 マイボトルの利用を促す情報に関するアンケート調査

○沼田 大輔 (福島大・経済)

1D-1415 地域の環境基本計画に基づく環境学習の実践

○島崎 洋一 (山梨大学)

1D-1430 霞ヶ浦沿岸地域における住民の環境保全行動意図の意思決定過程の分
析

○石井 康平 (千葉大学大学院・人文公共学府・博士後期課程)

1D-1445 営農型太陽光発電に対する全国農業委員会調査から -2018 年度調査と
2023 年度調査の比較を通じて-

○倉阪 秀史 (千葉大学)

1D-1500 都市計画マスタープランの評価におけるフューチャー・デザイン導入
の効果検証 ~岩手県矢巾町での討議実践とアセスメント手法の検討~

○廣島 滉大 (阪大・工)

口頭発表 1D-4 「微生物利用」 D 会場(144) 15:30-16:15

座長: 王 齊

1D-1530オカラから単離した微生物の属種の特特定

○石田 陽香, 竹本 直道, 諸隈 恵美, 石橋 康弘 (熊本県立大学大学院・環境共生, 福岡女子大学・国際文理)

1D-1545水銀汚染埋立処分場における生物を用いた土壌中水銀のリスク評価

○坂井 佑圭, Soe Pyae Sone, 諸熊 恵美, 石橋 康広 (熊本県立大学大学院 環境共生)

1D-1600 乳牛糞のメタン発酵システムを利用した脱炭素資源循環型インド社会の構築

○小林 剛, 金子 光瑠, 大門 裕之 (豊橋技術科学大学資源循環工学研究室)

[2日目(9月10日)午前]

口頭発表 2C-1「市民行動2」C会場(143) 9:00-10:15

座長: 田畑 智博

2C-0900 素因・誘因に着目した集水域単位での土砂災害リスク評価 —平成30年7月豪雨時の広島県を対象に—

○田中 優也, 後藤 真太郎 (立正大・地球)

2C-0915 社会背景と多様な立場の理解を促す公害教育ワークショップにおける態度変化

○平松 あい, 高野 誠二 (東洋大学, 東海大学)

2C-0930 自治体の取り組みによる行動変容についての考察

○岸上 祐子 (九州大学大学院工学研究院)

2C-0945 社会活動量に基づく学びの効果測定のための社会的インパクト指標の検討

○中口 毅博 (環境自治体会議環境政策研究所)

2C-1000 エシカル消費・関係人口の視点からみたふるさと納税の効果検証

○田畑 智博, 大西 暁生 (神戸大・人, 横浜市大・デ)

口頭発表 2C-2「化学分析2」C会場(143) 10:30-11:45

座長: 三宅 祐一

2C-1030 作業環境のリスク評価を指向した揮発性有機化合物用の大気サンプラーの性能評価

○今出 夢乃, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)

- 2C-1045 ベトナム廃プラスチックリサイクル施設における多環芳香族炭化水素類及びハロゲン化誘導体の排出実態調査
○谷 涼那, 田川 瑛梨, 松神 秀徳, 宇智田 奈津代, 田中 厚資, Tuyen Le, Viet Pham, 国末 達也, 鈴木 剛, 三宅 祐一 (横浜国大, 国立環境研究所, ハノイ自然科学大, 愛媛大)
- 2C-1100 水環境における油膜条件下のネオニコチノイド系農薬の分析方法の開発と評価
○永長 愛華, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)
- 2C-1115 海水および海洋プラスチックごみからのプラスチック添加剤の抽出法の検討
○三国 向日葵, 滝川 哲也, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)
- 2C-1130 炭素材料併用型フォトフェントン反応による汚染物質除去機構の反応速度論的解析[論文賞受賞記念講演]
○徳村 雅弘, 村松 孝亮, 王 齊, 石橋 龍太郎, 安保 貴永, 皆川 正和, 三宅 祐一, 雨谷 敬史, 牧野 正和 (静岡県大, 三菱ケミカル株式会社)

口頭発表 2D-1 「エネルギー関連」D会場(144) 9:00-10:15

座長: 鷺津 明由

- 2D-0900 都市と地方の連携による再生可能エネルギー導入促進に向けた経済的不平等性緩和を考慮した施策の評価
○伊達 貴彦, 栗栖 聖, 福士 謙介 (東京大学)
- 2D-0915 再生可能エネルギーを活用した水素利用システムの社会的応用にむけて
○鷺津 明由, 吉田 彬, 田山 真史 (早稲田大学)
- 2D-0930AI 予測によるエネルギー削減効果
○森村将平, 呂 冠宇 (早稲田大学)
- 2D-0945 将来における木質バイオマスの供給ポテンシャルの推計に係るシミュレーション手法の開発[クリタ研究賞受賞講演]
○周 俊男, 田畑 智博 (神戸大学)
- 2D-1000 デマンドレスポンス・蓄電池を組み合わせた地域電力マネジメントにおける電力需給解析
○加藤 仁志, 林徹, 中谷隼, 藤田壮 (東京大学大学院)

口頭発表 2D-2 「脱炭素」D会場(144) 10:30-11:45

座長： 増井 利彦

2D-1030 国内繊維産業における環境負荷軽減に関する研究 ―炭素排出および水質汚染への環境税賦課時の価格変化に着目して―

○勝又 淳司（法政大学大学院）

2D-1045GHG サプライチェーン排出量の算出とネットゼロ目標

○中山 琢夫, 手嶋 進, 寺野 隆雄, 原科 幸彦, 大杉 仁（千葉商科大学, 株式会社レナリア）

2D-1100 所得階層別の価格弾力性を考慮した炭素配当シミュレーションについて

○浜島 直子（名古屋大学大学院）

2D-1115 ネットゼロ排出達成に向けた東アジアにおける国際連系の役割の評価

○森 翔太郎, 大城 賢, 藤森 真一郎（京大・工）

2D-1130 鳥取県での地産地消による脱炭素と県内経済への効果の推計

○藤井 裕加, 増井 利彦（東工大 環境・社会理工学院, 国立研究開発法人 国立環境研究所）

[2日目(9月10日)午後]

口頭発表 2D-3 「データ解析 1」 D会場(144) 12:45-14:15

座長： 大西 暁生

2D-1245 建物地階の空間分布と時系列変化の分析 -東京 23 区を対象として-

○杉本 賢二（大阪公立大学）

2D-1300 首都圏における太陽光パネル廃棄物発生量の将来推計

○藤澤 有希, 片野 博明, 小谷野 眞司（公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所）

2D-1315 建築物ストック動態を考慮した住宅用給湯器分野における技術普及シナリオ分析

○黄 文彦, 林 徹, 中谷 隼, 藤田 壮（東大院・工）

2D-1330 IoT デバイス・人工衛星・市況状況に基づく水稻農家の転作支援システムの構築

○松村 寛一郎, 杉本 賢二, Srishti Arora, Piyush Kumar, Vitaly Kuzin（金城大学, 大阪公立大学, Ignisnova robotics, India, Nizhny Novgorod State Tech）

2D-1345 容器包装プラスチックの回収方法による回収物への影響

○佐伯 孝, 関 睦人（富山県立大学）

2D-1400家庭から排出されるプラスチック資源の循環利用可能量の推計

○関 睦人, 佐伯 孝 (富山県立大学)

口頭発表 2D-4 「データ解析 2」 D 会場(144) 14:30-15:45

座長: 棟居 洋介

2D-1430 日本におけるプラスチック対策をめぐる国と自治体の関係性とその政策動向—資源循環と予防的措置の観点から—

○中山 敬太 (公益財団法人日本都市センター)

2D-1445 地方自治体のプラスチック汚染をめぐる規制措置に関する現状と課題—栃木県と宮津市(京都府)の事例から—

○中山 敬太 (公益財団法人日本都市センター)

2D-1500 水道水源における化学物質流出事故に対する高度浄水処理及び対策オプションの評価[論文賞受賞記念講演]

○北本 靖子, 伊藤 理彩, 中久保 豊彦, 東海 明宏 (大阪大学, 北九州市立大学)

2D-1515 マルコフ連鎖を用いた衣類リユース事業がもたらす環境負荷削減効果の評価

○山本 竜己, 棟居 洋介, 金森 有子, 増井 利彦 (東京工業大学工学院経営工学系経営工学コース)

2D-1530 包括的な空間家計消費推計の自動・時系列推計計算アルゴリズムの開発及びサブシステムモデル分割による拡張法の提案

○牧 誠也, 大西 悟, 藤井 実, 後藤 尚弘 (国立環境研究所 社会システム領域, 東洋大学 情報連携学部情報連携学科, 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点)

ポスター発表(優秀発表賞応募発表を含む)

- 発表・質疑応答: 9月9日(月)11:45 - 13:30 (コアタイムは12:15-13:15)
- P-1 霞ヶ浦沿岸地域における住民の環境保全行動意図の意思決定過程の分析
○石井 康平 (千葉大学大学院・人文公共学府・博士後期課程)
- P-2 将来における木質バイオマスの供給ポテンシャルの推計に係るシミュレーション手法の開発
○周 俊男, 田畑 智博 (神戸大学)
- P-3 ハイパースペクトルカメラを用いた水田土壌の窒素含有量の推定
○佐藤 響平, 田中 優也, 向高 新, 木村 篤史, 後藤 真太郎 (立正大・地球環境)
- P-4 静岡県における河川・沿岸域のプラスチックごみとマイクロプラスチックの劣化評価
○滝川 哲也, 竹下 由布子, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環境科学, 静岡県環境衛生科学研究所)
- P-5 家庭から排出されるプラスチック資源の循環利用可能量の推計
○関 睦人, 佐伯 孝 (富山県立大学)
- P-6 オカラから単離した微生物の属種の特定
○石田 陽香, 竹本 直道, 諸隈 恵美, 石橋 康弘 (熊本県立大学大学院・環境共生, 福岡女子大学・国際文理)
- P-7 水銀汚染埋立処分場における生物を用いた土壌中水銀のリスク評価
○坂井 佑圭, Soe Pyae Sone, 諸熊 恵美, 石橋 康弘 (熊本県立大学大学院 環境共生)
- P-8 Quantitative analysis of China's Certified Emission Reduction (CCER) policy: Impacts on CO2 emissions and economic activities using a CGE model
○朱 瑞康, 棟居洋介, 金森有子, 増井利彦 (東京工業大学, 国立環境研究所)
- P-9 気候変動に関する YouTube 動画の分析評価
○大里 優佳, 栗栖 聖, 福士 謙介 (東京大学)
- P-10 シリコーンパッシブ法における環境影響の評価と補正方法の精緻化
○田川 瑛梨, 王 齊, 雨谷 敬史, 三宅 祐一 (横浜国大, 労働安全衛生総合研究所, 静岡県大)
- P-11 包括的定量分析に基づく繊維製品に含まれる有機フッ素化合物 PFAS の経年動向解析

- 齋藤 隼輝, 小澤 真人, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国大, 国環研)
- P-12 Impact of Climate Change on Sports: awareness and attitudes of University-level Football Team members in Japan
○バラオイング ローレンクロエ, 阿部 直也 (東京工業大学)
- P-13 建築物ストック動態を考慮した住宅用給湯器分野における技術普及シナリオ分析
○黄 文彦, 林 徹, 中谷 隼, 藤田 壮 (東大院・工)
- P-14 デマンドレスポンス・蓄電池を組み合わせた地域電力マネジメントにおける電力需給解析
○加藤 仁志 (東京大学大学院)
- P-15 素因・誘因に着目した集水域単位での土砂災害リスク評価 —平成 30 年 7 月豪雨時の広島県を対象に—
○田中 優也, 後藤 真太郎 (立正大・地球)
- P-16 鳥取県での地産地消による脱炭素と県内経済への効果の推計
○藤井 裕加, 増井 利彦 (東工大 環境・社会理工学院, 国立研究開発法人 国立環境研究所)
- P-17 労働安全衛生法に基づくリスク評価のための揮発性有機化合物パッシブ法の検討とデータベース構築
○溝渕 円香, 王 齊, 雨谷 敬史, 深澤 英, 福島 靖弘, 鈴木 義浩, 三宅 祐一 (横浜国大, 労働安全衛生総合研究所, 静岡県大, 柴田科学)
- P-18 人工海水中のマイクロポリエチレン・ポリプロピレンに対するポリ塩化ビフェニル異性体の吸着特性
○服部 兼真, 須之内 朋哉, Nguyen Minh Tue, 後藤 哲智, 日向 博文, 国末 達也 (愛媛大・浴環研セ)
- P-19 野生のトビに蓄積するデクロラン類及びベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤の時系列トレンド: 残留性有機汚染物質との比較解析
○服部 兼真, 後藤 哲智, 山村 紀航, 石丸 一輝, 国末 達也 (愛媛大浴環研セ)
- P-20 日本の農業生産過程における社会環境リスクの定量評価 —コメ生産システムに対する社会ライフサイクルアセスメントの適用—
○廣井 克郎, Tuo Xinyi, 赤堀 弘和, 山本 康貴 (北大・農)

- 長鎖ペルフルオロカルボン酸(LC-PFCA)の曝露量推定及びリスク評価に必要な濃度情報の整理：魚、室内空気、ハウスダストに含まれる LC-PFCA 及び前駆物質濃度
- P-21 ○齊藤 歩太, 細田 隼基, 光崎 純, 中井 里史 (横浜国立大学大学院 環境情報学府, 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE), 横浜国立大学大学院 環境情報研究院)
- P-22 化学工場事故発生時の地方自治体における 対応準備状況の把握と課題の分析
- 伊藤 理彩, 中久保 豊彦, 東海 明宏, ○伊藤 拓城 (大阪大学大学院, 北九州市立・工)
- P-23 日本の休廃止鉱山における災害時を対象とした環境リスク評価：秋田県の事例を基にした指標の策定と適用
- 谷村 和樹, 東海 明宏, 中久保 豊彦, 伊藤 理彩 (大阪大・工, 北九州市立大・工)
- P-24 加熱式タバコに特異的な放散物質のスクリーニング分析
- 星野 真梨彩, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県立大学)
- P-25 *地方公共団体*におけるカーボンクレジットの*創出*可能性～長野県辰野町を事例に～
- 遠藤 瑞季 (東京大・公共)
- P-26 種の感受性分布を用いた静岡県吉田川における農薬の生態リスク評価
- 守谷 美祐, 野呂 和嗣, 矢吹 芳教, 雨谷 敬史 (静岡県大・薬食, 大阪環農水研)
- P-27 日本からの輸出製品に含まれる化学物質が輸入国に与えるヒト健康リスクの評価
- 小林 諒真, 東海 明宏, 中久保 豊彦 (大阪大学・工学研究科)
- P-28 ポリ塩化ビフェニルの無害化処理によるリスク削減効果及び費用対効果の推定
- 宮崎 蓮太, 東海 明宏, 中久保 豊彦, 伊藤 理彩 (大阪大・工, 北九州市立大・国際環境工)
- P-29 4種のマイクロプラスチックに吸着した多環芳香族炭化水素類の光分解量子収率の評価
- 柿本 祐奈, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県立大・薬食)
- P-30 Sustainable Gastronomy Tourism Development in Rural Japan
- Suleimanov Rizvon (Chiba University)

- P-31 再生可能エネルギー利用拡大に向けた市町村連携における送電容量の考慮：北九州都市圏域のケーススタディ
○垣内 真安太，叢 日超，藤山 淳史，松本 亨（北九州市立大学）
- P-32 節水ミスト栽培の開発
○中居 くらら（青森県立名久井農業高等学校）
- P-33 日本主要河川における塩分濃度差発電の発電量予測
○渡邊 琴弓，島 弘幸（山梨大学 生命環境学部 環境科学科）
- P-34 韓国の急激な少子高齢化に着目した需要側の温室効果ガス削減に関する研究
○岩元 晟洋，重富 陽介，Lee Jemyung，Suk Sunhee（長崎大・環，立命館大・理工，地球研，長崎大・水・環）
- P-35 甲武信ユネスコエコパークのキシヤヤスデの行動
○穴井 音百，加藤 美桜，望月 夢羽（山梨英和高等学校）
- P-36 ミジンコウキクサによるバイオエタノール生成の発酵期間の適正条件
○横谷 理央，佐藤 華英，白戸 梨央奈（山梨英和高等学校）
- P-37 住宅における内装材・家財ストック量の推計
○林 優輝，谷川 寛樹，白川 博章（名古屋大・工，名古屋大・環境学研究科）
- P-38 未利用資源の活用ポテンシャルの定量化とその活用による脱炭素化の可能性について
○盛岡 謙太，白川 博章，長尾 征洋，谷川 寛樹（名古屋大・工，名古屋大・環境学研究科）
- P-39 4D-GIS を用いた名古屋市中心部における TMR 推計
○丹羽 倫太郎，白川 博章，山末 英嗣，谷川 寛樹（名古屋大・工，名古屋大・環境学研究科，立命館大・機械工）
- P-40 気候変動対策による河道掘削量の推計
○岡田 大翔，谷川 寛樹，白川 博章（名大・工，名大・環境学研究科）
- P-41 甲府市愛宕山のアラカシ林 II～ササラダニの温度耐性を通して～
○藤原 寿羽（山梨英和高校自然科学部）
- P-42 地方紙記事に対するテキストマイニングによる熊本県における SDGs に関する話題の把握に関する基礎的研究 ―気候変動問題に着目して―
○萩本 航生，岩見 麻子（熊本県立大学）
- P-43 多足類の物理運動の数式化

- 森山 有美菜 (山梨英和高等学校)
- P-44 営巣地とねぐらの生態
○清水 羅愛 (山梨英和高等学校)
- P-45 森林による二酸化炭素吸収量を増大することで 2050 年までにカーボンニュートラルの達成は可能か？
○中村 百花, 柳生 佐保, 森田 久美, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-46 水俣病発生地域の高校生を対象とした水俣病及び水銀に関する理解度調査
○多久島 梨央, 坂口 花菜, 山口 杏華, 森田 久美, 柳生 佐保, 丸本 倍美, 丸本 幸治 (熊本県立水俣高等学校, 国立水俣病総合研究センター)
- P-47 鉄触媒における鉄の化学形態が空気清浄能に及ぼす影響
○池田 紫音, 大森 果菜, 徳村 雅弘, 達 晃一, 道志 智, 前田 和紀, 篠原 直秀, 内藤 航, 牧野 正和 (静岡県大, いすゞ自動車株式会社, 大阪産技研, 産総研)
- P-48 バイオ液肥の環境影響評価に向けた残留抗菌剤の分析法の検討
○占部 杏珠, Salma Umma, 三原 千穂, 徳村 雅弘, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史, 牧野 正和 (静岡県大)
- P-49 作業環境のリスク評価を指向した揮発性有機化合物用の大気サンプラーの性能評価
○今出 夢乃, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)
- P-50 乳牛糞のメタン発酵システムを利用した脱炭素資源循環型インド社会の構築
○小林 剛, 金子 光瑠, 山野 博之, 熊倉 芹恵, 大門 裕之 (豊橋技術科学大学資源循環工学研究室, スズキ (株) バイオガス事業本部)
- P-51 ベトナム廃プラスチックリサイクル施設における多環芳香族炭化水素類及びハロゲン化誘導体の排出実態調査
○谷 涼那, 田川 瑛梨, 松神 秀徳, 宇智田 奈津代, 田中 厚資, Tuyen Le, Viet Pham, 国末 達也, 鈴木 剛, 三宅 祐一 (横浜国大, 国立環境研究所, ハノイ自然科学大, 愛媛大)
- P-52 水環境における油膜条件下のネオニコチノイド系農薬の分析方法の開発と評価
○永長 愛華, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)

- P-53 海水および海洋プラスチックごみからのプラスチック添加剤の抽出法の検討
○三国 向日葵, 滝川 哲也, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史 (静岡県大・環)
- P-54 撥水剤・防曇剤に含まれる有機フッ素化合物 PFAS の包括的定量分析
○南村 紬, 磯部 大斗, 齋藤 隼輝, 松神 秀徳, 三宅 祐一 (横浜国大, 国立環境研究所)
- P-55 都市環境学者とアーティストとのコラボレーション
○一ノ瀬 俊明 (国立研究開発法人国立環境研究所)
- P-56 タイヤ凍結粉碎(CMTT)試料から溶出する化学物質のノンターゲット分析 -水温・時間・UV 劣化による溶出量の変化-
○国末 達也, 田上 瑠美, 仲山 慶, 後藤 哲智, 田中 厚資, 高橋 勇介, 鈴木 剛 (愛媛大学・沿岸環境科学研究センター, 国立環境研究所・資源循環領域)
- P-57 アスベスト未報告工事検出手法の構築: 廃棄物データを利用した基礎的検討
○豊永 悟史 (熊本県保健環境科学研究所, 熊本県環境生活部環境局環境保全課)
- P-58 出前支出額と容器包装プラスチック廃棄物との関係把握
岡嶋 実佑, ○大西 暁生, 蔡 佩宜, 田畑 智博 (元横浜市立大学, 横浜市立大学, 九州工業大学, 神戸大学)
- P-59 家庭における容器包装プラスチックの排出・分別に関する実証分析
○田畑 智博, 蒲生 昌志, 塚原 建一郎, 玄地 裕 (神大・人, 産総研・安, 産総研・エ)
- P-60 「可愛くなりたい」は環境に悪い!?
○坂井 彩果, 濱中 千聖 (山脇学園高等学校 サイエンスクラス 2年)
- P-61 相対取引型カーボンクレジット制度の拡大による持続可能性への影響予測
○徳永 大典, 佐々木 貴宏 (NTT SE 研 宇レP, ソニーCSL)
- P-62 Research on the Climate Change and Regional Tourism: Case Studies of Public Bathing Beach Usage Situation in Chiba
○タン ソウニ, 栗栖 聖 (東大・工)
- P-63 埼玉県熊谷市におけるスマートクールシティワークショップの試み
○白木 洋平, 渡来 靖, 三宅 創太, 原田 勲, 大島 英司 (立正大・DS, (同) ツクル, (株) キョーリク, 熊谷市, 立正大・地球)

- P-64 ハンドウイルカ親子の諸臓器における水銀及びセレン濃度
○丸本 倍美, 丸本 幸治, 坂本 峰至, 中村 政明 (国立水俣病総合研究センター)
- P-65 保育施設における室内外空気中微生物の遺伝子解析
○高橋 ゆかり, 岩本 玲佳, 田中 大祐 (富山国際大・現代社会, 富山大・理工, 富山大・理)
- P-66 太陽光発電量の見通しに経年劣化および気候変化が与える影響について
○河瀬 玲奈 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- P-67 有機化合物の皮膚透過性へのマトリックスによる影響の評価
○王 齊, 小野 恵美, 岩瀬 真喜子, 柳場 由絵 (労働安全衛生総合研究所)
- P-68 地球温暖化の影響を加味したマクロ経済シミュレーションの考察
○二本木 伸佳, 徳永 大典, 河田 博昭 (NTT 宇宙環境エネルギー研究所)
- P-69 再生プラスチックの健康リスク評価: 再生プラスチック製品からの可塑剤のケーススタディ
○小島 直也, 篠原 直秀, 小栗 朋子, 小倉 勇, 小野 恭子, 梶原 秀夫, 中村 圭介, 山崎 絵理子, 羽成 修康, 蒲生 昌志 (産業技術総合研究所 安全科学研究部門, 産業技術総合研究所 物質計測標準研究部門)
- P-70 植物残渣のアップサイクルによる水質浄化材
○末松 三豪 (ソニーグループ株式会社 テクノロジープラットフォーム)
- P-71 新興国におけるライフスタイルと環境の変化-インドネシアバリ島を事例として-
○大野 朋子, 田畑 智博 (神戸大学)
- P-72 夏季の都市空間における街路樹から感じる「涼しさ」評価
○大野 朋子, 植竹 駿 (神戸大学)
- P-73 複数の自然災害を起因とする産業事故の 定性的リスク分析におけるハザードエリアの抽出
○大岩 竜也, 東海 明宏, 中久保 豊彦, 伊藤 理彩 (大阪大・工, 北九州市大・工)
- P-74 持続可能性評価結果に基づく土壌汚染地における浄化目標値の考え方の検討

- P-75
- 小林 剛, 万 晟吉, 半田 千智, 李 京 (横浜国立大学)
 - 仲澤 諒人, 棟居 洋介, 金森 有子, 増井 利彦 (東工大、増井・金森研究室)
- オリンピックを対象とした持続可能性指標の提案とそれによる各大会の評価

シンポジウムー1 9月9日(月) A会場(141) 9:15～11:45

「平時から災害事故時を対象とした化学物質リスクガバナンスに向けた基盤的手法の構築」

プロジェクト名：環境研究総合推進費 1MF-2303

オーガナイザー 東海明宏(大阪大学)教授

伊藤理彩(北九州市立大学)准教授

挨拶：東海明宏(大阪大学)教授

趣旨説明：本シンポジウムは、環境省・環境再生保全機構の環境研究総合推進費 1MF-2303「平時から災害事故時を対象とした化学物質リスクガバナンスに向けた基盤的手法の構築」(2023～2024年度)における研究成果物を報告する場として、企画致しました。自然災害に起因する化学物質リスクの評価・管理手法について、個々のケーススタディに基づく研究内容を発表致します。Natech(自然災害起因の産業事故)への対策論について、ご参加頂く皆様と議論を深めたいと考えています。

講演者：①「土砂災害を起因とした化学物質流出事故のリスク管理に向けた評価手法の構築」

森口暢人(大阪大学) 招へい研究員

②「内陸直下型地震を想定した化学物質流出事象の解析に基づく浄水場での活性炭吸着性能の評価」

伊藤理彩(北九州市立大学) 准教授

③「気候変動を考慮した将来の豪雨災害による化学物質流出事故のリスク評価」

平井宏明(大阪大学) 招へい研究員

④「巨大地震およびそれに伴う河川遡上津波により河川に流出・拡散した化学物質の浄水場取水影響評価」

米山 望(京都大学) 准教授

⑤「Natech への対策に関する調査」

豊田真弘(日本エヌ・ユー・エス(株)) コンサルタント

⑥「Natech 事象後の回復期の評価」

中久保豊彦(大阪大学) 准教授

総合討論

司会：伊藤理彩(北九州市立大学) 准教授

シンポジウムー2 9月9日(月) B会場(142) 9:15 ~ 11:45

「水から人々の暮らしと価値観を探る—私たちはどのような水環境を目指すべきか—」

プロジェクト名：クリタ水・環境科学振興財団

「ネットワーク構築助成」

オーガナイザー 村上道夫(大阪大学)教授

中村高志(山梨大学)准教授

挨拶：村上道夫(大阪大学)教授

趣旨説明：人々の暮らしと水の間に関わりや人々が水に対して抱く価値観を明らかにすることは、目指すべき社会像を社会で共有するために不可欠であり、水環境の科学を進める上での根幹となる。本シンポジウムでは、市民へのアンケートやインタビューなどを用いた調査事例を紹介すると共に、倫理的・法的・社会的課題の観点から目指すべき水環境の姿と科学の在り方を議論する。

講演者：①「市民参画型インフラ情報プラットフォーム利用が促す水に対する誇りと認識の変化」

○村上道夫(大阪大学)教授、八木橋真央

②「能登半島地震で考えるフェーズフリーな水・インフラ・地方」

○中村高志(山梨大学)准教授、西田継、遠山忠、

亀井樹

③「小規模水道組合からみた水の価値観」

○野田岳仁(法政大学)准教授

④「天水を利用した伝統的な農業水利システムの継承に向けた実践的課題」

○新田将之(新潟大学)准教授、伊藤海音

⑤「アラビア乾燥地の利水と治水：温暖化と水害多発の時代に」

○近藤康久(総合地球環境学研究所/総合研究大学

院大学)教授、黒沼太一、三木健裕

⑥「水管理をめぐる倫理的・法的・社会的課題(ELSI)の歴史事例分析」

○中村晋一郎(名古屋大学)准教授、木村匡臣、

吉田武郎、西原是良、村上道夫

総合討論

コメンテータ：武山絵美(京都大学大学院/愛媛大学大学院)教授

司会：村上道夫(大阪大学)教授、中村高志(山梨大学)准教授

シンポジウムー3 9月9日(月) C会場(143) 9:15～11:45

「多世代・多地域連携による人材育成ーインカレSDGsプロジェクトを例としてー」

プロジェクト課題名：文科省ユネスコ活動補助金「インカレSDGsプロジェクトー異世代・多地域連携での個別最適な学び・協働的な学びを社会や人生に活かす」

オーガナイザー 中口毅博(芝浦工業大学)名誉教授
杉本卓也(千葉商科大学)教授

趣旨説明： 大学には次世代の社会の担い手を育成するという側面から、SDGs達成に向けた学びの機会提供という社会的要請がある。SDGsの対象は広範であり、異世代・地域・学校連携型で個別最適な学びと協働的な学びを同時に実現することが効果的でありうる。そこで本シンポジウムは、多世代・多地域連携による「インカレSDGsプロジェクト」の実践報告をはじめ、SDGs達成に貢献する人材育成に携わる研究者等の意見交換の場とする。具体的には、まず、インカレSDGsプロジェクトの「課題研究支援」「合同実習」「合同実践ワークショップ」「フォローアップ」の中身について紹介した上で、芝浦工業大学、東邦大学、千葉商科大学の事例について紹介する。

東邦大学の事例では理学部生命圏環境科学科のプロジェクト実習の紹介を行う。環境プロジェクトの検討を行うが、実習が終わった後も継続を試みるが増えている。今回は企業や地域と連携した事業について紹介する。

千葉商科大学は大学が所在する市川市と鎌ヶ谷市と包括協定を結んでおり、その協定に基づいて小学生向けの環境講座を実施している。環境講座の実践は正課講義の一環として実施する場合と、学生の課外活動のひとつとして実施している場合があるが、本報告では、自治体との包括協定に基づく活動の一環として実施した環境講座について、環境講座の企画運営に携わる学生の活動について報告する。

総合討論では、他の大学における実践についてフロアからの事例紹介を求めた上で、地域や国際社会のニーズを満たしつつ学びを深めそれを人生に活かす方策について議論したい。

講演者：①インカレSDGsプロジェクトー異世代・多地域連携での個別最適な学び・協働的な学びを社会や人生に活かす

中口毅博(芝浦工業大学)名誉教授

②環境プロジェクトと地域をつなげる実践事例

竹内彩乃(東邦大学)准教授

③「自治体との包括協定における環境講座の企画運営ー千葉商科大学における正課講義と課外活動を活用した多様な学び」

杉本卓也(千葉商科大学)教授、手嶋進(千葉商科大学)准教授

総合討論

司会：中口毅博(芝浦工業大学)名誉教授、杉本卓也(千葉商科大学)教授

パネリスト 小澤はる奈(NPO法人環境自治体会議環境政策研究所理事長)

竹内彩乃(東邦大学)准教授

手嶋進(千葉商科大学)准教授

シンポジウムー4 9月9日(月) A会場(141) 13:45～16:15

「カーボンニュートラル地域の実現に向けての社会実装研究(デジタルトランスフォーメーションの活用)」

プロジェクト名: 文部科学省 大学の力を結集した、地域の脱炭素化のための基盤研究開発
「地域の脱炭素社会の将来目標とソリューション計画システムの開発と自治体との連携を通じた環境イノベーションの社会実装ネットワークの構築」
環境研究総合推進費 1-2305
「ICTを用いた地域のCO2の見える化システムと、それを用いた脱炭素事業拠点事業、脱炭素政策の評価プロセスの開発」

オーガナイザー 藤田 壮(東京大学) 教授
松本 亨(北九州市立大学) 教授

挨拶: 藤田 壮(東京大学) 教授

趣旨説明: 脱炭素社会実現に向けて地域の拠点地区・施設を重層的にネットワークさせることにより、地域の短期・中長期の経済社会経済価値を高めつつ、脱炭素のグリーンイノベーションの先導事業を計画、実装するためのガイドラインと、デジタルトランスフォーメーションを実現する都市情報インフラシステムについて議論する。その際に、地域のスマートモニタリングに地域診断システムの開発と、地域自律エネルギー、次世代交通等の重層的な価値の創出による新しい脱炭素社会の構築のゴール、その実現に向けての分野横断の先導プロジェクトの計画と、合理的で実現可能な将来効果を明らかにする地域連携実装研究について議論する。

講演者: ①「脱炭素地域を実現する社会実装研究にむけて」

○藤田壮(東京大学) 教授
林徹、黄文彦(東京大学)

②「電力消費のモニタリングとエネルギーマネジメントへの活用可能性」

松本亨(北九州市立大学) 教授
藤山淳史、叢日超(北九州市立大学)

③「時系列データに基づくエネルギー消費特性解析」

○芦名秀一(国立環境研究所) 室長
牧誠也、平野勇二郎(国立環境研究所)

④「脱炭素地域づくりに貢献する地域エネルギー事業の計画・評価」

○平野勇二郎(国立環境研究所) 主幹研究員
藤田壮(東京大学)、磯崎恭一郎、安達健一(国立環境研究所)

⑤「脱炭素・ストック型社会の構築に資する資源蓄積計測システムの構築」

○谷川寛樹(名古屋大学) 教授
白川博章、長尾征洋、中村勇斗、長谷川正利(名古屋大学)

⑥「市民の態度・行動変容に向けたゲームの活用」

○後藤尚弘(東洋大学) 教授
石河颯也、荒巻俊也、大塚佳臣、平松あい、花岡千草(東洋大学)

⑦「地域特性に応じた脱炭素施策の提案プロセスの構築」

○大塚佳臣(東洋大学) 教授

嶺岸聖也、後藤尚弘、平松あい、花岡千草、荒卷俊也（東洋大学）

総合討論

司 会：松本 亨（北九州市立大学）教授

シンポジウムー5 9月9日(月) B会場(142) 13:45～16:15

「シチズンサイエンスと熟議を基盤とした気候変動ナラティブと態度行動変容の可能性」

プロジェクト名：総合地球環境学研究所実践プログラム「地球人間システムの連環に基づく未来社会の共創」FS「シチズンサイエンスと熟議を基盤としたナラティブとサイエンスの統合・態度行動変容手法の確立：気候変動を題材として」

オーガナイザー 馬場 健司（東京都市大学）教授・（総合地球環境学研究所）客員教授
木村 道徳（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）専門研究員・（東京都市大学）客員教授
挨拶：馬場健司（東京都市大学）教授

趣旨説明： 本シンポジウムでは、シチズンサイエンス（市民参加型モニタリング）により収集した気候変動の影響と思しき事象に係わる伝統知・地域知を、専門家や政策担当者らと熟議を行いながら科学的知見（専門知）とをナラティブとして統合していくことにより、データや事象への理解を深め、脱炭素社会・気候変動適応社会の構築に向けて人々の態度行動変容を促進していく可能性について展望する。例えば、国内サイトにおける地域知・伝統知（史料の有無やシチズンサイエンティストの存在等）の収集可能性、オンライン熟議プラットフォームのあり方、人々の態度行動変容を促すメカニズム等の 이슈について議論する。

- 講演者：①「身近な環境情報が人びとの気候変動危機意識に与える影響の把握」
木村道徳（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）専門研究員
- ②「気候変動リスクに対する人びとの態度と行動の関係」
小杉素子（静岡大学）准教授
- ③「フロントランナーの実践を通じた態度行動変容の拡大波及をねらうトランジションマネジメント」
松浦正浩（明治大学）専任教授
- ④「オンライン熟議システムのための知識グラフ生成手法の開発」
古崎晃司（大阪電気通信大学）教授
- ⑤「気候変動適応のための予測情報」
石川洋一（海洋研究開発機構）センター長

総合討論

司会：小澤はる奈（東京都市大学）特別研究員

シンポジウムー6 9月10日(火) A会場(141) 9:15 ~ 11:45

「環境科学と大学の環境教育の体系化 歴史・現状・未来 8 - 「環境冠大学院の教育改革・組織改革と現在地」 -

オーガナイザー 内山 弘美(千葉日大一高) 非常勤講師
山中 康裕(北海道大学地球環境科学研究所) 教授

挨拶: 内山 弘美(千葉日大一高) 非常勤講師
山中 康裕(北海道大学地球環境科学研究所) 教授

趣旨説明: 本シンポジウムは、1990年代を通して開催されたシンポジウム「全体と要素」の理念を継承し、環境科学と大学・大学院レベルの環境教育、とりわけ環境を冠する学部・学科・大学院を中心に上げてきた。過去10年間に、SDGsの提唱や気候変動の深刻化など、環境科学を取り巻く状況が大きく変化した。同時に、COVID-19、グローバリゼーション、高等教育政策における大学の組織改革や教育改革の中で、環境冠大学院の教育も大きく変化している。今回は、環境冠大学院の過去10年の教育改革・組織改革を振り返り、教育の現状と今後の展望について議論を進める。対象とする大学院は、環境科学研究科として設立された3大学の大学院である。本学会でこれまで開催された、他の「大学の環境教育のシンポジウム(杉本他)」の成果も視野に入れながら、環境冠大学院の教育について議論することは、ますます重要になるものと考えられる。

講演者: ①「環境冠大学院の組織改革・教育改革」

内山 弘美(千葉日大一高) 非常勤講師

②「北海道大学大学院環境科学院における動向」

山中 康裕(北海道大学地球環境科学研究所) 教授

③「東北大学大学院環境科学研究科における気候変動教育から見えてきたこと」

明日香壽川(東北大学大学院環境科学研究科) 教授

④「日本から世界のための環境科学へ: 筑波大学大学院の国際化と将来の学位プログラムに求められる視点」

松井健一(筑波大学理工情報生命学術院、環境学学位プログラム) 准教授

総合討論:

司会: 内山 弘美(千葉日大一高) 非常勤講師

山中 康裕(北海道大学地球環境科学研究所) 教授

コメンテーター 杉本卓也(千葉商科大学) 教授

閉会の挨拶: 内山 弘美(千葉日大一高) 非常勤講師

山中 康裕(北海道大学地球環境科学研究所) 教授

シンポジウムー7 9月10日(火) B会場(142) 9:15～11:45

「水質スクリーニング分析の社会実装における課題と提言」

プロジェクト名：環境総合研究推進費【5G-2101】

「水環境中の要調査項目調査へのターゲットスクリーニング分析の実装」

オーガナイザー 小林憲弘(国立衛研)室長

栗栖太(東京大学)教授

趣旨説明：水環境や水道水において監視が必要な化学物質は無数に存在する一方、公定法による検査は対象物質が限られ、検査に多大な労力を要することから、多物質を迅速に測定し評価する体制の構築が求められている。現在、検査機関物質の情報を予めデータベースに登録することで、検査時に標準品を用いずに網羅的に定性・定量が可能な「スクリーニング分析」の水環境や水道分野への適用が検討されている。しかし、スクリーニング分析は公定法と比べて誤同定が起りやすく定量誤差が大きい等、その実運用には様々な課題があることから、本シンポジウムではスクリーニング分析法の社会実装に向けた課題と、それらを踏まえた運用方法について提案し議論する。

講演者：①「水道水質検査におけるスクリーニング分析の社会実装に向けた進捗と課題」

小林憲弘(国立医薬品食品衛生研究所)室長

②「AIQS-GC自動同定要件の信頼性検討」

亀屋隆志(横浜国立大学)教授

③「GC/MSスクリーニング分析による河川水中農薬の実態調査と測定精度」

木下輝昭(東京都健康安全研究センター)課長

④「LC-QTOF/MSを用いたスクリーニング分析における機種依存性低減の取り組み」

鈴木裕識(岐阜大学)准教授

⑤「LC-QTOF/MSを用いた水道水中農薬類のスクリーニング分析法の構築と課題」

高木総吉(大阪健康安全基盤研究所)主幹研究員

⑥「四重極LC-MS/MSを用いたトリガーMRM法による環境水中の農薬スクリーニング分析法の検討」

古川浩司(三重県環境保全事業団)部長

総合討論(講演者、会場参加者)

司会：小林憲弘・栗栖太

シンポジウム－8 9月10日(火) A会場(141) 13:00～15:30

学術賞受賞記念シンポジウム「環境配慮行動研究の展開」

オーガナイザー 村上一真(滋賀県立大学)教授

甲斐田直子(筑波大学)准教授

趣旨説明：環境配慮行動の規定要因の解明や促進方策の検討に係る研究は、これまで省エネや廃棄物発生抑制、環境ボランティア活動への参加や寄付など、多様な分野の行動を対象に数多く実施されてきた。近年、日本では、法律・条令の制定、世論の高まり、技術の進展などに伴い、食品ロス、容器包装プラスチック、電気自動車などの分野での研究も増えてきている。また、環境学習・教育、ライフスタイルや well-being、コミュニティ活動との関連、諸外国との比較の研究も見られる。本シンポジウムでは、これら研究に関する話題提供と、今後の研究展開について議論を行いたい。

講演者：①「環境配慮行動研究から実験的研究への展開」

村上一真(滋賀県立大学)教授

②「環境配慮意識を形成する「きっかけ」と行動の関係性」

甲斐田直子(筑波大学)准教授

③「コミュニティ意識が環境配慮行動におよぼす影響とは？－環境意識調査で見えてきたこと－」

法理樹里(農林水産省 農林水産政策研究所)主任研究官

④「琵琶湖流域の環境保全活動に影響を与える要因」

平山奈央子(滋賀県立大学)准教授

⑤「日本・マレーシアにおけるプラスチック汚染緩和行動と促進要因：文化・信仰的背景に着目して」

糸井風音(筑波大学)社会工学学位プログラム博士後期課程

⑥「一般家庭と企業における電気自動車導入意思の要因分析」

白木裕斗(名古屋大学)准教授

総合討論

司会：村上一真(滋賀県立大学)教授

シンポジウムー9 9月10日(火) B会場(142) 13:00 ~ 15:30

「グローバルサウス諸国における環境防災」

オーガナイザー 山本佳世子(電気通信大学)教授

岩本茂子(電気通信大学)協力研究員

挨拶: 山本佳世子(電気通信大学)教授

趣旨説明: グローバルサウスとは発展途上国と同様の意味で用いられる言葉であり、南半球に多いアフリカ、ラテンアメリカ、アジアの新興国などが当てはまる。一方、2015年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が記載された。しかし、グローバルサウス諸国は気候変動の影響を受けやすい地域に位置していることが多く、環境保全と経済発展を両立させることが急務となっている。また、気候変動の影響により、豪雨、熱波、干ばつなどの自然災害の発生が増えている。本シンポジウムでは、若手研究者のこうした地域を対象とした災害環境リスクに関する研究成果について紹介するとともに、参加者とともに、グローバルサウス諸国における災害や環境に関する対策の方向性について議論する。

講演者: ① 「Temporal Prediction of Heavy Rainfall Using Total Lightning Associated with Summer Thunderstorms Over Japan」

Debrupa Mondal (電気通信大学) 博士後期課程学生

② 「Comparative Analysis of Ecological Vulnerability in Three Provincial Capitals in Pakistan Using Satellite Imagery」

Muhammad Kamran (電気通信大学) 博士後期課程学生

③ 「Monitoring Greenhouse Gases (GHG) Concentration using Earth Observation Data and Google Earth Engine」

Shakir ul din (電気通信大学) 博士後期課程学生

④ 「Integrating Citizen Science Data with Official Monitoring Efforts: Enhancing Environmental Radiation Surveillance Post-Fukushima」

Imam Ghazali Yasmin (電気通信大学) 博士後期課程学生

⑤ 「Machine Learning Algorithms for Streamflow Prediction in CAMELS Catchments」

Manzu Gerald Simon Kenyi (電気通信大学) 博士後期課程学生

総合討論

司会: 岩本茂子(電気通信大学)協力研究員

シンポジウムー10 9月10日(火) C会場(143) 13:00～15:30

「サステナビリティの観点からみた地域の気候アクションを通じた人づくり・地域づくり」

オーガナイザー 白井信雄(武蔵野大学) 教授
増原直樹(兵庫県立大学) 准教授

挨拶: 白井信雄(武蔵野大学) 教授

趣旨説明: ゼロカーボンや気候変動適応のための地域政策(地域の気候アクション)が急ピッチで進められるなか、大企業や行政主導の技術導入を中心とした取り組みだけではサステナビリティの規範を満たす地域づくり(持続可能な地域づくり)につながらない可能性がある。サステナビリティの観点から必要なことは、地域主体となる住民や地元企業・NPO等の参加と協働、社会的包摂や校正・公平の観点での地域づくり、地域政策と連動する気候変動教育や専門的なコーディネイト人材の育成等である。本シンポジウムは、サステナビリティの観点から地域の気候アクションを通じた人づくり・地域づくりの実践の分析を共有し、あるべき施策を考える対話の場となるように開催する。

- 講演者: ①「住民における気候変動に関する意識変化と気候変動教育の必要性～飯田市における2012年と2023年の住民アンケート調査結果を中心として」
白井信雄(武蔵野大学) 教授
- ②「シティズンシップ力向上を目指した気候変動教育&地域づくりの方法論と成果～福井県坂井市での実践をもとに」
水上聡子(アルマス・バイオコスモス研究所)
- ③「神奈川県相模湾沿岸地域における気候変動に関するステークホルダーの認識と参加の仕組みづくり」
小澤はる奈(持続可能な地域創造ネットワーク)
- ④「ゼロカーボンシティ宣言自治体担当者との協働と政策移転～脱炭素化をめざす京都ラウンドテーブルの実践から」
青木えり(総合地球環境学研究所)
- ⑤「高知県での地域における気候アクション～住民等の参加・学習の視点から」
松本明(高知大学) 准教授
- ⑥「集团的アクションを通じた気候エンパワメント～環境教育・ESDの視点から」
二ノ宮リム さち(立教大学) 教授

総合討論

司会: 増原直樹(兵庫県立大学) 准教授